

平成 20 年 12 月 25 日

各位

『F F G調査月報 1月号』発行について

12月25日(木)、経済調査誌『F F G調査月報 1月号』を発行いたしましたのでお知らせいたします。

今月のメインレポートは、「九州企業とアジア経済」(寄稿)と「新しい事業展開のヒントは大学にも!」、「企業動向調査にみる景況感(福岡県、熊本県、長崎県)」の3本です。

なお、F F G調査月報はF F G三行の営業店の窓口配置しております。

【メインレポート】

寄稿 九州企業とアジア経済 ~金融危機の影響は~

九州大学大学院 丹羽由一教授

本年度より福岡銀行が九州大学経済学研究院へ設置した寄附講座(アジア財務戦略)で特任教授として教鞭をとられる丹羽先生からの連載寄稿です。初回は、今の金融危機の影響に関して、「アジア経済との関連や九州企業の置かれている状況および対応策」などについて解説いたします。

アジアが金融危機の影響を受ける理由

米国に端を発した金融ショックによるアジア主要株式市場の下落状況とその波及メカニズムを短期的要因(資金フロー面)と中長期的要因(実体経済面)から考察

金融危機による韓国への影響

韓国ウォンの急激な下落とその構造的問題を分析

金融危機による九州経済への影響

九州経済のアジア依存度と九州の産業構造の特徴について解説

九州企業としての活路

九州企業の強みを分析した上で、今後の対応策を提言

産業調査 「新しい事業展開のヒントは大学にも!」

知の拠点である大学は、幅広く学術的知識と専門的技術を教授する教育研究機関として発展してきましたが、近年ではそれら大学の知識や専門的な技術を教育のみならず、社会・経済・文化の発展やビジネスの分野で活用することへの期待が高まっています。中でも、大学との共同研究は、「大学シーズ」と「民間企業の事業化に向けた需要(企業ニーズ)」をマッチングすることで、「競合他社との差別化を目的とした技術水準の向上」や、「下請企業からの脱却を意図した自社商品(技術)の開発」を図る極めて有効な手段であり、企業存続・発展のための重要な取り組みでもあります。

このレポートでは、特に地域企業がどのような形で大学との共同研究に取り組み、事業展開に役立っているのかを現場で活躍する企業を具体的にご紹介しながら考察しています。

地域経済調査 「企業動向調査」にみる景況感(福岡県、熊本県、長崎県)

2008年10月に実施したB S Iアンケートをもとに、福岡県、熊本県、長崎県の企業景況感の動きを報告します。

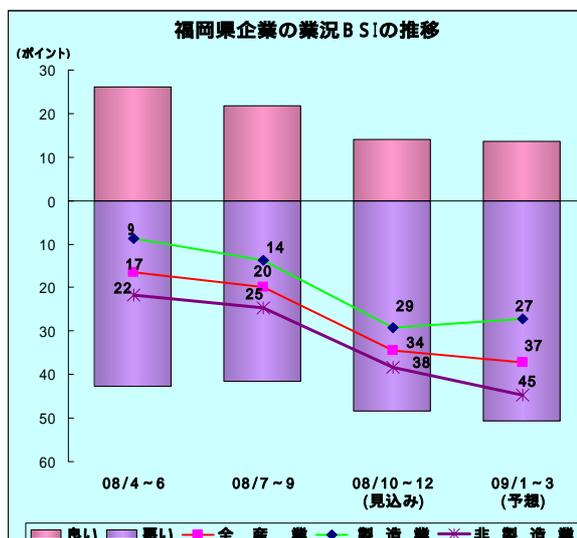
1. 福岡県内企業の景況感

7～9月期で小幅悪化し、10～12月期は大幅な悪化を見込む

全産業ベースで7～9月期は 20(前期比-3)、10～12月期は 34(同-14)と、10～12月期の景況感は急速な悪化を見込んでいます。

製造業は7～9月期 14(同-5)と電子部品・電気機械や鉄鋼・非鉄はプラスに転じたものの、化学・石油製品が 100ポイント以上悪化したことなどにより、全体を押し下げました。

非製造業の7～9月期は、卸売業、サービス業などで改善しましたが、小売業、ホテル・旅館業などで大きく悪化し、全体は 25(同-3)に低下しています。10～12月期は製造業、非製造業全ての業種でマイナスとなり、非常に厳しい状況を見込んでいます。

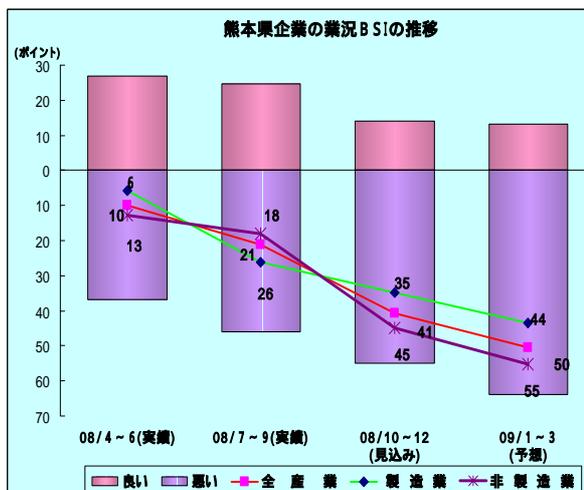


2. 熊本県内企業の景況感

7～9月期は好調だった化学・石油等の落込み大きく、10～12月期以降も厳しさを見込む

全産業ベースで7～9月期は 21(前期比-11)、10～12月期は 41(同-20)と急速な悪化を見込んでいます。

製造業の7～9月期は好調だった化学・石油製品と輸送用機械の悪化により 26(前期比-20)となり、10～12月期は食料品と金属製品の低下により 35(同-9)を見込んでいます。非製造業の7～9月期は、小売業が大きく好転したことなどで 18(同-5)にとどまりましたが、10～12月期の落ち込みは厳しく、小売業、卸売業、運輸・倉庫業が大きく悪化し 45(前期比-27)を見込んでいます。



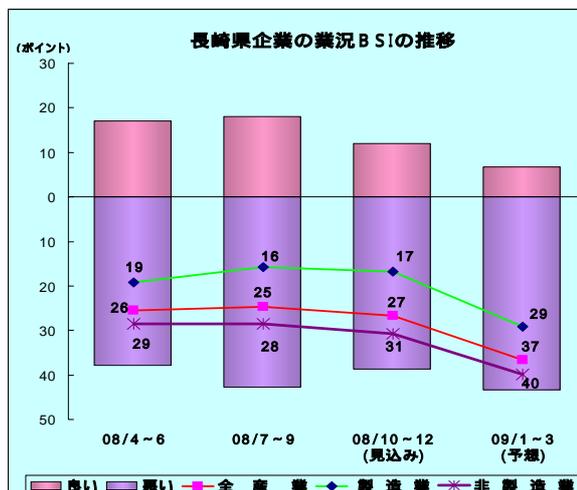
3. 長崎県内企業の景況感

7～9月期までは改善傾向で推移し、10～12月期以降徐々に悪化の動きが広がる

全産業ベースで7～9月期は 25(前期比+1)、10～12月期は 27(同-2)と景況感はほぼ横ばいです。

製造業の7～9月期は繊維製品、土石、輸送用機械などの改善で 16(同+3)となりました。10～12月期は繊維製品が大きく下げっていますが、食料品、土石、電気機械等は改善したことなどで、ほぼ横ばいを見込んでいます。

非製造業の7～9月期は小売業の指数が改善したこと、卸売業、運輸・倉庫業が堅調に推移したことなどにより、 28(前期比±0)となりました。10～12月期は 31(同-3)と、ほとんどの業種でやや悪化することを見込んでいます。



その他にも、次のような記事を掲載しております。

< トップに聞く >

FFG 3行取引先の経営者に、ご自身の「経営理念」と企業の「セールスポイント」をお聞きしています。

松本 光治 氏(株式会社 ギコウ 代表取締役社長)

松岡 義博 氏(有限会社 コッコファーム 代表取締役社長)

木庭 吉昭 氏(株式会社 丸金佐藤造船鉄工所 代表取締役社長)

< FFGニュース >

「食の商談会」を開催

国内大手百貨店等流通業者バイヤー(仕入れ担当者)を招き、福岡銀行本店5階に新設されたビジネスマッチングフロアにて開催された「食の商談会」の様子をレポートしています。

< 海外レポート >

アジアのトレードフェア(見本市)の中心地、香港の利用

「中国であって中国でない」「中国市場へのゲートウェイ」と言われる香港の見本市を利用した中国・香港との貿易についてレポートしています。

< 海外進出最前線(香港編) >

海外進出を果たし、成長を続けている企業を紹介しています。

日本謙混凝土(香港)有限公司

<<本件に関する問い合わせ先>>

株式会社 FFGビジネスコンサルティング 企画調査部(担当) 島浦、横尾

電話：092-723-2576 FAX：092-761-8846